

に染まった。夕日の<sup>ざんこう</sup>残光が二人の体と髪を輝かせた。空気の中にはココナッツの香りが<sup>ただよ</sup>漂っていた。

「私たち、私たちはいつまでも仲良しよ！」

そう言って、ノラはセレナを抱きしめた。

「私もずっとセレナと友達になりたかったの！」

」

セレナの喜びはもはや言葉では表現できない。いつも友達になりたいと思っていた人が、密かに同じ機会を探していたとは思ってもいなかった。

「また月曜日に会おう」

とセレナは普通の友達に言うように言った。

